

平成 23 年度技術研究発表会および平成 24 年度 総会・特別講演会

1. 平成 23 年度技術研究発表会

年明けの 1 月 13 日、北方海域技術研究会では独立行政法人土木研究所寒地土木研究所との共催により寒地土木研究所 1 階講堂において技術研究発表会を開催しました。寒地土木研究所の寒地水研研究グループ長許士裕恭氏から開会挨拶を頂いた後、同研究所の寒冷沿岸域チームの菅原吉浩氏、水産土木チームの大橋正臣氏の各氏から研究発表が行われました。当研究会からは株式会社クマシロシステム設計の河合孝治氏から東日本大震災関連の報告が行われ、最後に北海道大学大学院工学研究院特任教授加賀屋誠一氏から特別講演をいただきました。研究発表では、菅原氏からは「北海道の周辺における波浪の将来変化について」と題し、オホーツク海の流氷面積減少のため、来襲する確率波の新たな検討が沿岸防災上必要であることを述べられ、波浪推算における海氷の取り扱い方法に関する研究成果について発表されました。大橋氏からは「ハタハタの産卵特性と人工海藻について」と題して人工海藻を設置した海域での産卵などの研究成果が発表されました。

大震災関連報告では、「宮城県鮫浦湾漁港漁村の被災状況と復興構想案の概要」と題して NPO 水産物トレーサビリティ研究会などが中心となって実施された調査の結果が報告されました。報告では、小規模漁港の被災状況と復旧構想案を丹念な地元漁業者への聞き取り基に作成された構想案が示されました。

加賀屋氏からは「マルチエージェントシミュレーションによる市民の避難行動解析」と題して特別講演が行われました。講演では市民参加のまちづくりが必要であるとする氏の基本的視点が示され、ボトムアップアプローチによるミクロなモデルとその相

互作用としてのマルチエージェント・モデルの概念を説明いただきました。このモデルから安全の方向



発表中の菅原吉浩氏



発表中の大橋正臣氏



特別講演の加賀屋誠一氏

を示す指導的市民の行動がスムーズな避難を導く旨の示唆に富んだ結果を示していただきました。

2. 総会および特別講演

連休も近い4月20日、かでの27において北方海域技術研究会の総会とこれに併せた特別講演会が開催されました。

1) 総会

総会では会員、会友21名の出席を得て大塚代表からの挨拶の後、櫻井泉氏を議長に選出して議事が進められ事業報告、決算報告他について承認を得て終了しました。

2) 特別講演会

特別講演は約40名の参加を得て料理研究家でクッキングキャスターとしてご活躍中の星澤幸子氏と北海道大学大学院水産科学研究院教授の櫻井泰憲氏を講師としてお迎えいたしました。

星澤幸子講師からは「海は生みの母」と題して人の健康、長寿にとって食が重要であること、海の豊富なミネラルで育まれた昆布の食品として優れた機能を持つこと、また身体と地元でとれた食は一体であることを示す身土不二、噛むことの重要性などを軽妙なトークで従来の北方海域研究会とは違った楽しさを盛り込んだ有意義な講演を頂きました。櫻井泰憲講師からは「北海道における沿岸生態系の生物多様性の保全と持続型漁業の共存：その現状と未来」と題して講演を頂きました。講演は海洋生態系の危機、地球温暖化と寒冷化、水産資源の変動、生物多様性と持続的漁業、放射能の影響をキーワードとして多岐にわたる話題をご紹介いただきました。海の生態系の生物多様性の単純化が、大型クラゲや大型イカの大発生を引き起こす。日本周辺では、寒冷期にマイワシ、温暖期にスルメイカなどが増えるが、1989年(平成元年)に寒冷な海から暖かい海に変わり、最近ではサバ、マイワシなどの寒冷系の魚が増加している。温暖化が叫ばれる中での寒冷期と温暖期の周期的変化を指摘され海の資源変化から見える自然の環境変化や漁業などの人為的営みによる資源変化に興味深くお聞かせいただきました。

恒例の意見交換会も開催され、当研究会の創設に

尽力された東海大学生物理工学部長で当会顧問でもあります谷野先生にも久しぶりにご参加いただきました。最後になりますが、技術研究発表会の共催を頂いた独立行政法人土木研究所寒地土木研究所の皆様、お忙しい中、ご講演をお引き受け頂いた加賀屋誠一氏、櫻井泰憲氏、TV出演前の貴重な時間を割いてご講演を頂いた星澤幸子氏の各講師に心からお礼申し上げます。



総会の冒頭に挨拶する大塚代表



特別講演中の星澤幸子氏



特別講演中の櫻井泰憲氏